

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
 担当課長名：前佛 和秀

事業名	地高ICアクセス 一般国道312号 <small>おおみやみやま</small> 大宮峰山ICアクセス道路		事業区分	一般国道	事業主体	京都府
起終点	自：京都府京丹後市峰山町新町 <small>きょうたんど みねやまちょうしんまち</small> 至：京都府京丹後市峰山町新町 <small>きょうたんど みねやまちょうしんまち</small>		延長	1. 2 km		
事業概要	国道312号 大宮峰山インターアクセス道路は、地域高規格道路鳥取豊岡宮津自動車道（通称：山陰近畿自動車道）の大宮峰山ICと一般国道312号、482号とを結び、将来の京丹後市の玄関口となる道路である。					
H29年度事業化	H30年度都市計画決定	R元年度用地着手	R3年度工事着手			
全体事業費	約17億円		事業進捗率	約34%	供用済延長	— km
計画交通量	5, 300台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1. 7 (残事業) 2. 5	総費用 (残事業)/(事業全体) 11/16 億円 〔事業費：9.5/15億円〕 〔維持管理費：1.5/1.5億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 27/27億円 〔走行時間短縮便益：21/21 億円〕 〔走行経費減少便益：4.0/4.0 億円〕 〔交通事故減少便益：1.8/1.8 億円〕	基準年 令和2年		
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.5~1.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.5~1.8 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.6~1.7(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=2.1~2.6 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.2~2.6 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.3~2.5 (事業期間±20%)					
事業の効果等	①高速道路へのアクセス ・京丹後市市街地から大宮峰山ICとのアクセス向上が図れる。 ②高速道路と一体整備による効果 ・山陰近畿自動車道は、平成27年度から国土交通省による直轄権限代行により大宮峰山道路として、約5kmが事業化されており、本事業を一体的に整備することによって、現道の交通安全性の向上、地域の防災機能の強化、地域の観光産業を支援することができる。					
関係する地方公共団体等の意見	・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている ・「京都府夢実現プラン 丹後地域振興計画」（R元年10月策定）の主要事業に位置付けられている。					
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・大宮峰山道路は事業化されて以降、用地買収、埋蔵文化財調査が行われ令和元年12月には起工式を行い工事に着手するなど事業は順調に進ちよくしている。 ・国道312号と国道482号が会合する交差点は、交通渋滞が慢性化し、整備中の大宮峰山道路との並行する現道区間においても交通混雑や道路沿道施設への出入りにより、交通事故が発生する深刻な状況であり、山陰近畿自動車道を経由し、国道482号へ円滑に誘導することで、同交差点の渋滞対策を図る必要がある。 ・京都府立医科大学附属北部医療センターの受入体制強化に伴い、救急搬送数は増加傾向にあり、本事業により、京丹後市街地から大宮峰山道路にアクセスすることによる救急搬送時間の短縮がさらに求められている。 ・コロナ禍の影響により観光産業による地域経済への好影響は見通せないものの、将来的に山陰近畿自動車道の整備により、日本海側の広域的な周遊観光ルートを形成していく必要性に変わりない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率約65%、事業進捗率約34%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残る用地の取得や埋蔵文化財調査を進め、高速道路の整備と一体となって事業を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等	他工事からの盛土を流用しコスト縮減に努める。					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

直轄権限代行による大宮峰山道路は、用地買収、埋蔵文化財調査が行われ、令和元年12月には起工式を行い工事に着手するなど着実な進捗がみられ、本事業によりインターチェンジと接続させ、大宮峰山道路の整備効果を地域に波及させることが重要となっている。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。